修善寺
燕舎
GIFT SHOP & DESIGN STUDIO

地方のデザイン振興を支える
地域密着型のデザイン支援「燕舎」の提案

永山研究室
勝野 美葉子 Miyoko Katsuno

Theme:

地方のデザイン振興を支える
地域密着型のデザイン支援「燕舎」の提案

静岡県伊豆・修善寺のデザイン振興と地域活性化を最終的な目標に据え、新規事業を立ち上げた。事業計画の立案から、それに伴うグラフィックツールのデザイン制作、実店舗の運営までを一貫して取り組んだ。また、事業の一環として、地域産業と結びつけた商品開発や観光PRのためのマップ制作などを手がけた。

事業計画 立案・運営 — CI計画 ＋ 新規商品 企画・制作

SHOP DATE

修善寺 燕舎
GIFT SHOP & DESIGN STUDIO
静岡県伊豆市修善寺 825-2
open: 10:00-17:00 月曜・木曜休
http://tsubame-sha.net/

修善寺
燕舎
GIFT SHOP & DESIGN STUDIO
修善寺 燕舎

00 テーマ : 地 方 の デ ザ イ ン 振 興 を 支 え る

兼ねてから「地域に根ざしたデザイン」に関心が高く、卒業制作では、デザインを学んだ視点から地域内の課題を解決することをテーマに設定した。

現状調査

自身の出身地である伊豆 修善寺を対象地域に設定し、現状調査を行なった。

● 現状調査

調査まとめ

修善寺は、県内有数の温泉地として知られ、国内外から多くの観光客が訪れる。近年は、都内からのアクセスが向上したことや、日本の伝統文化に関心を持つ若年層が増加傾向にあることなどを背景に、これまで中高年が中心だった客層の幅が広がりつつある。また、東京五輪の開催を控え、インバウンド観光客の更なる増加が見込まれる中、地域の魅力を積極的に地域内外の人々に向けて発信していくことが望まれる。

テーマ決定

現状調査から、地域をよくしたいと思っている地元の人々が、アイディアをカタチにする、発信していくことに多くの課題を抱えている実情を目の当たりにした。また、自分自身も、当地域の観光事業に携わる中で、観光資源を活用しきれていない不充足感を感じていた。そこで、大学で学んだデザインの視点から地方創生に携わり、地域のデザイン振興、そして、結果的に地域の社会と経済の活性化に貢献することができるのではないかと考え、今回の制作のテーマを決定した。

[伊豆・修善寺地域の現状]

若年層観光客の増加

東京五輪開催決定
※競輪競技

外国人観光客の増加

▸▸▸

[抱えている課題 / 問題]

・地域の魅力を PR したい
・観光客を増やしたい
・お土産物を新しくしたい
・一次産業を盛り上げたい

でも、
どうしたら良いかわからない

・県外へのデザイン外注
・お土産物の OEM 製作

助成金や補助金などを含む
財源が地域の外へ流出

▸▸▸

地域密着型のデザイン支援への
必要性 & 確かなニーズ

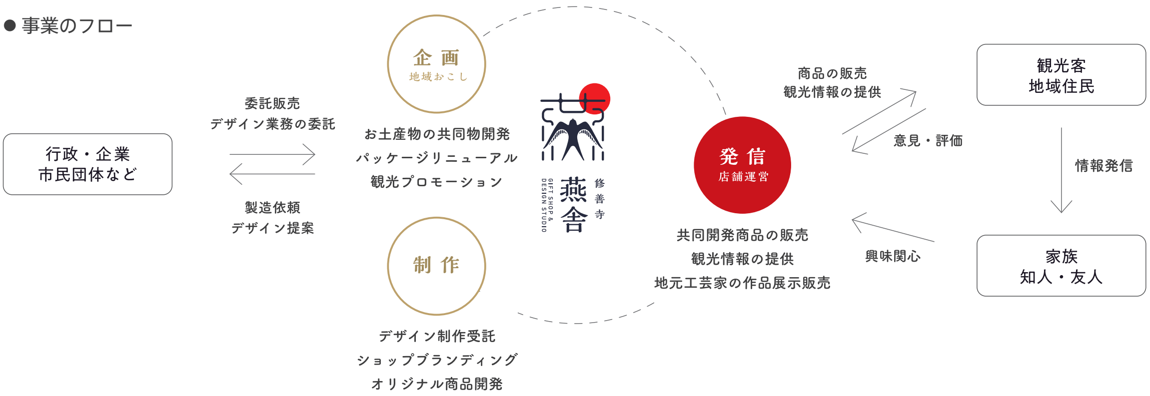
01 事業計画の立案

「地域密着型のデザイン支援」をどのような形で行なっていくのか事業計画を立案した。

事業構想

デザインスタジオと、それを母体とする実店舗の運営を通して、企画から制作、情報発信まで、一貫した体制で取り組むものとした。主な事業として、地場産品を活かしたお土産物の開発や、既存の商品のリニューアル、地域の魅力を効果的に PR するサイトの製作・運営を行う。また、修善寺温泉場の中心に構える実店舗を、共同開発したお土産物の売り場や地元工芸作家の作品展示・販売ブースを設けるなど、情報発信の場として活用していく。

● 事業のフロー



事業計画書の作成

背景と目的を整理し、事業計画書を作成。

● 事業計画書

01-2 物件探し / 契約

温泉場の中心から徒歩 1 分ほどの空き店舗を契約。

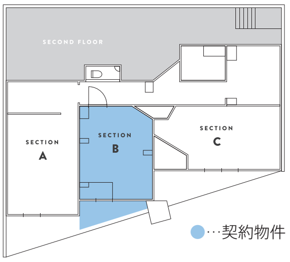
● 物件情報

住　　所 〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 825-2

面　　積 : 28 ㎡ (ウッドデッキ部込み)

交　　通 : 修善寺温泉バス停から徒歩 1 分 / 修禅寺から徒歩 1 分

● 簡易見取り図



02 ベーシックデザイン展開

ネーミングの開発から、シンボルマーク、ロゴタイプを制作した。

ネーミング

プロジェクトの想いをツバメの性質になぞらえて「燕舎」と命名。

[プロジェクトの想い]		[ツバメの性質]
・地域の人々の想いを運びたい ・沢山の人に立ち寄ってほしい ・また来たくなる場所にしたい	⟷	・春を告げる、幸せを運ぶ ・人の集まるところに巣を作る ・毎年同じところに戻ってくる

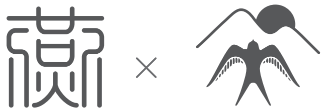
ロゴ

修善寺の趣ある土地柄に馴染むようなデザインを展開。ロゴマークは、篆書体の「燕」の文字をベースに、メインモチーフの燕と太陽をイメージした円形で構成。ロゴタイプは、和文には「A-OTF 解ミン 宙 Std」にアレンジを加えたものを、欧文には「DIN」と「Brandon Grotesque」を用いることで、伝統ある雰囲気の中にも新しさを感じるようなデザインとした。

●ロゴ

燕舎 修善寺 GIFT SHOP & DESIGN STUDIO

●エレメント

燕 = 

古典的な印象を与える篆書体

空に羽ばたくツバメ

●カラー

・紫紺燕色	■	Pantone: 5185 Process : C89/M9/Y74/K57/ RGB　: R27/G23/B35
・紅色	■	Pantone: 1797 Process : M100/Y100/ RGB　: R225/G16/B32

●アイディアスケッチ

●検討段階のロゴマーク / ロゴタイプ

SHUZENJI 燕 TSUBAME-SHA

TSUBAME-SHA DESIGN STUDIO & GIFT SHOP

燕舎

燕 燕 燕 燕舎舎

03 アプリケーションデザイン展開

02 で決定したロゴやブランドカラーを元に、ショップツールなどを展開した。

ショップツール一覧

● 看板 / ラッピング用品 / ショップカード / ユニフォーム

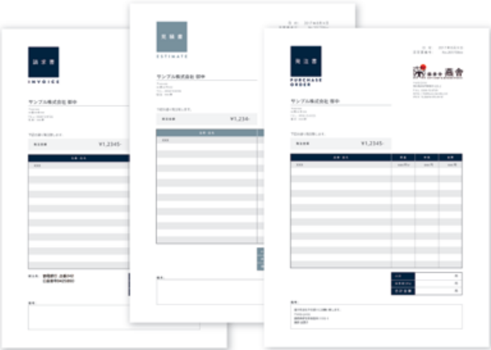
● 看板 / のれん / ベンチ

● WEB サイト

● 広報ツール (事業案内 / 営業用ポートフォリオ)

● 事務用品 (ハンコ)

● 書類 (請求書 / 発注書 / 納品書)



● ノベルティ

04 開店準備

開業届の提出をはじめに、什器の運び入れや商品の仕入れを行なった。また、03 と並行してデザインの決まった看板などを制作した。

制作の様子

手彫りの型を用いたシルクスクリーンでノベルティを制作 / レーザープリンターで看板の出力 / 看板の色味調整 / のれんに刺繍を施してもらっている様子

05 店舗オープン

8 月 21 日の弘法大師奉納 花火大会に合わせて店舗をオープンした。

06 07 新規商品企画 / デザイン展開

事業の一環である、お土産物の新規企画やパッケーじリニューアルに取り組んだ。事前に調査したお土産物の現状を踏まえて自発的な商品企画や、 生産者へのヒアリングを元にパッケージのリニューアルを行なった。また、依頼を受けて、地域 PR 用の案内マップや特設サイトの制作に取り組んだ。

プロデュースした商品一覧

● 入浴剤 /25g

既存の商品のリニューアル。昭和期を連想させるような手書きのイラストでレトロなグラフィックで制作。

● 修善寺梅　梅シロップ /250g

小さな農園の“Zat Hijau”の自家製梅シロップ。原材料は、修善寺梅と氷砂糖のたった二つで丁寧に作り上げていることから、シンプルな構成で優しさを感じるグラフィックとした。

● 荘康園 / 煎茶 40g

修善寺の夫婦が営む小さな茶畑“荘康園”の茶葉を使用。
20 代～30 代前半の若年層をターゲットにした展開。

● 修善寺温泉　恋の橋めぐり案内マップ /HP

旅館組合の依頼で、地域活性化プロジェクトの一つである、「修善寺恋の橋めぐり」の案内マップとウェブサイトを制作した。大学生～の女性をターゲットに、修善寺のイメージを壊さない程度の可愛らしさで展開

● ポストカード (3 種 / 春・秋・夏)

修善寺の土産屋を回ってもポストカードがほとんど販売されていない、もしくは数十年来変わっていないという現状から自主企画で制作。現在駅や旅館で販売も行なっている。

08 卒業制作まとめ

店舗で実際に使用しているツールを用いた、簡易ショップのような形で展示ブースを構成した。

展示ブースの構成

❶: 燕舎 ブランディングツール
(ショップカード / ラッピング用品 他)
❷: ユニフォーム
(オリジナルワンピース / バッジ)
❸: 看板 _1
❹: 看板 _2
❺: ポスター _1
❻: ポスター _2
❼: 新規商品の開発 / 提案
(入浴剤 / 梅シロップ 他)

■ MEDIA

● FM iz:10 月 /1 月 ラジオインタビュー

87.2 MHz
FM IZみらいずステーション

● 伊豆半島 景観看板大賞 :

● 伊豆市広報 2 月号 : 巻頭特集

デザインの力で地域課題に取り組む若きクリエイター

修善寺のまちにオフィス兼店舗を開業 デザインを通して観光誘客を目指す

今回は、修善寺温泉場にある「燕舎」の勝野美葉子さんにお話を伺いました。

●どんな活動をしていますか？

大学でデザインを学びながら、修善寺の温泉場で「燕舎」というデザインスタジオとショップを運営しています。主に、お土産物のプロデュースや観光PR業務、オリジナル商品の開発を行ないながら、店舗にて自分が手がけた商品や地元の工芸作家の作品、セレクト雑貨の販売を行なっています。最近では、修善寺温泉協同組合からお話を頂いて、修善寺温泉場の5つの川の伝承をPRした地域活性化プロジェクト「恋の橋めぐり」の監修やマップ、関連するお土産物の企画・デザインを担当しました。デザインを通して地域の課題に触れ、地域の人々の想いや魅力を「カタチ」にすることで地域のデザイン振興を支え、地域内外の人々に愛される地域づくりに貢献していくことを目標に活動しています。

●伊豆市で活動を始めた理由は？

都内で就職活動をしながらも、自分が生まれ育った自然豊かな修善寺で家族と暮らしながら仕事がしたいという思いがずっとありました。そんな中、偶然にも空き店舗を見つけ、これは運命だと思い、既に決まっていた内定を辞退して、修善寺での開業を決心しました。修善は急げと、約2カ月の準備期間を経て、昨年8月21日の弘法さんの日（※1）にオープンしました。

●活動していて感じることは？

自分が手がけたものがお客様の手に渡る嬉しさを日々感じています。また、自分が販売に携わることで、地域内外の方々の反応を直接受け取ることができるため、プレッシャーも多い半面やりがいをとても感じます。「恋の橋めぐり」のマップが配布された際に、地元の方に「素敵なものを作ってくれてありがとう」と言われたときは、この仕事をやっていて良かったと強く思いました。

●今後は？

この先数年は、お土産物の開発を精力的に進めていきます。お土産を買うことで旅の満足度が上がったり、土産話とともにお土産を受け取ると「行ってみようかな」という気持ちになったりすることがあるかと思います。自分の住む地域に魅力的な名産品や手土産があると、どこか誇らしい気持ちが芽生えたりもします。そういった感情のひとつひとつが、地域の雰囲気づくりやリピーター客の獲得・新規旅行客の招致にもつながっていくと考えています。また、デザインをすることで、アイデアをカタチにしたい・発信したいけれど「どうしたら良いかわからない」とお悩みの方の力になることができたら嬉しいです。東京2020大会自転車競技伊豆開催や都心からのアクセス向上などを背景に、観光客が増加傾向にある今だからこそ、色々と楽しいことを仕掛けていきたいです。

勝野美葉子さん

※1…弘法大師奉納花火大会

修善寺 燕舎
GIFT SHOP & DESIGN STUDIO
住所／伊豆市修善寺 825-2
公式ホームページ
修善寺　燕舎
問合せ
修善寺 燕舎
メール／k.miyoko@tsubame-sha.net

19歳の時にデザインを担当した「修善寺温泉 恋の橋めぐり」の広報物（写真①）、店頭で観光客に修善寺の魅力を楽しく伝えている様子（写真②）。
自らデザインしたオリジナルグッズもお店で販売（写真③）。
修善寺温泉場でオーナーを務める雑貨店「燕舎」の入口には、自らデザインした暖簾がかかっている（写真④）。
店頭に立ちながら、合間の時間でデザインのアイデアなどをメモしている所（写真⑤）。

永山研究室：勝野 美葉子